

氏名 田 宮 隆

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 乙 第 2199 号

学 位 授 与 の 日 付 平成 2 年 12 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 ヒト正常脳及び脳腫瘍における S-100 蛋白サブユニット（ α 鎖、 β 鎖）の局在に関する免疫組織化学的研究

論 文 審 査 委 員 教授 赤木忠厚 教授 森 昭胤 教授 徳永 勲

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒト正常脳及び脳腫瘍における S-100 蛋白 α 鎖及び β 鎖サブユニットの局在を免疫組織化学的に検索した。その結果、ヒト正常脳においては、脈絡叢上皮細胞では、 β 鎖が強陽性、小脳のバークマングリア細胞は、 β 鎖のみ陽性、プルキンエ細胞及び顆粒層の神経細胞は、 α 鎖、 β 鎖共に陰性である事が明らかとなった。また脳腫瘍では、良性星状膠腫、乏突起膠腫、脈絡叢乳頭腫、髄芽腫、神経鞘腫では、各々の組織型で、S-100 蛋白サブユニットの局在に一定の傾向が認められた。その陽性反応は、同一組織型ではあまり差がなく、それぞれの origin である正常細胞の陽性反応と類似していた。一方、脳室上衣腫、髄膜腫、悪性星状膠腫（多形性膠芽腫を含む）では、S-100 蛋白の局在が症例により異なり、一定の傾向が認められなかった。このように一部の脳腫瘍では、S-100 蛋白サブユニットの免疫組織化学的局在に多様性を示した。この原因として、腫瘍化に伴う S-100 蛋白サブユニットの局在が変化する可能性が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は正常脳及び脳腫瘍における S-100 蛋白 α 鎖及び β 鎖サブユニットの局在を免疫組織化学的に検索したものであるが、従来十分に明らかにされていなかった脳腫瘍各組織型における各サブユニット発現様式について、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。